

令和5年度 家庭教育オピニオンリーダー研修① 実施報告

実施日：令和5年8月24日（木）

第1回目は、Zoomを活用し、オンラインで研修を実施しました。

○ 開講式

○ 説明「とちぎの家庭教育支援施策と家庭教育オピニオンリーダーの活動について」

栃木県教育委員会事務局生涯学習課 副主幹 白井 淳子

前半は、近年の社会の変化に伴い生じてきた家庭教育・子育て上の課題や、それらの解決に向けた家庭教育支援の必要性等、本県の家庭教育をめぐる状況についての確認がありました。

後半は、本県の家庭教育支援施策及び家庭教育オピニオンリーダーに関する説明、養成研修や修了者の活動の様子についての紹介がありました。受講者は、過去に研修を修了した方々が「栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会」を組織していること、また、各市町において地域に根ざした家庭教育を支援する活動を継続して行っていることなどについて学びました。



○ オリエンテーション（自己紹介等）

各教育事務所の家庭教育担当職員を含む参加者全員の自己紹介と、今後の研修についての説明を行いました。終始和やかな雰囲気の中で、受講者はそれぞれが研修へ参加した理由や意気込みなどについて話しました。今後の研修を共にする仲間として、相互理解を深めるきっかけとなった様子でした。

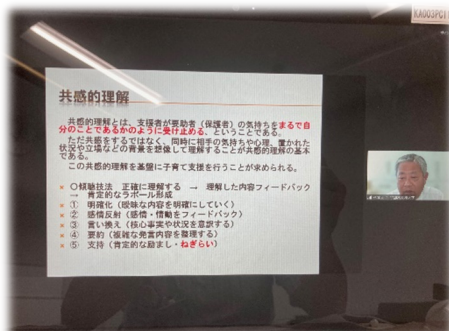
○ 講話「子育て家庭の現状とその支援について」

宇都宮共和大学子ども生活学部 教授 杉本 太平 氏

前半は、育児不安感やメディア依存、コロナ禍での新たな課題や日本の子育て支援の今後の方向性などについて話がありました。特に、母親の育児不安感については、夫側の困難感と育児関与、睡眠との関連、人間関係力、親子関係の形成不全が深く関わっていると説明がありました。

後半は、カウンセリングについて、演習を交えながら説明がありました。話を聞く際には、共感的理解が必要であること、理解した内容のフィードバックが重要であることなど、具体的な事例を挙げながら分かりやすく説明していただきました。

講話終了後の講師への質問や、グループごとの振り返りにおける発言、アンケートから、受講者が講話を通してこれまでの自身の家庭教育支援に関連する取組を振り返り、今後取り組んでいきたい家庭教育支援に関わる活動のイメージを思い描くことができた様子が伺えました。



☆ 受講者の声（アンケートから）

- ・家庭教育オピニオンリーダーの活動について理解することができました。特に、親子講座や団地の集会所でのイベントなど地域のニーズに沿った活動等をしていることがとても勉強になりました。
- ・要援助者自身が問題の解決策を見つけ出せるように、傾聴、受容、共感し、共に育つ関わり方を大切にすることが重要であることを理解できました。
- ・「子育ての悩みはあなただけではいいですよ」と、相手に寄り添い一緒に考えられるように、普段から親子との関わりを大切にしながら過ごしたいと思います。
- ・多くの方が悩みや思いを共有したり、相談したりできる場を積極的に作っていきたいと思います。また、どんな世代の方でも、子どもに関わると笑顔で、生きがいを感じてくださることが多いです。家庭教育という場をたくさんの方のつながりの場にできれば素敵だなと思いました。
- ・社会情勢や環境の変化に伴う家庭教育の在り方が、目まぐるしく変わっていていることに、改めて気付かされました。新しい知識や技法を習得するべく、このような研修に積極的に参加したいと思います。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp